



手をつなごう



手をつなぐことで、幼児が原因となる事故の多くを占める“飛び出し”を防ぐことができます。

手をつないで幼児が手をあげたときよりも高い身長の保護者と接近して歩行することで、ドライバーの“見落とし事故”を低減できます。

公園の中などの比較的安全な場所では手をつながない保護者が、車が接近するような場面で手をつなぐことで、子供が“危険な状況”を学習できます。

6月から幼稚園・保育所(園)・こども園で交通安全教室を行います。さばえの交通安全を見守るヒーロー「サバーン」と「アゼリアン」と一緒に楽しく分かりやすい教室していきます。よろしく願います。



交通安全教育指導員
古師・森

お子さまといっしょに出かけるときは保護者の方が車道側を歩くこと。また、子どもは突発的に行動するので、気になるものが多そうな場所を通るときは、手のひらではなく、手首をしっかり握っておくと安心です。



交通安全は家庭から

子どもの交通安全は、日常生活において繰り返し教育していくことが大切です。お子様と一緒に外出した際などは、手をつなぐ、子どもから目を離さない、保護者が車の通る側を歩くなど幼児の保護を実践するとともに、実際の交通場面で、どんなところに危険が潜んでいるのか、どうすれば安全なのかを繰り返し一緒に考え、お子様の交通安全意識を高めていただくと幸いです。

